



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新たな祭りの創出と地域への定着：実行委員会から見た祭りの10年 課題と展望
Author(s)	山下, 新一郎; 山村, 高淑
Description	2021年度オンライン観光創造フォーラム. 2021年12月1日. オンライン. 北海道大学観光学高等研究センター.
Relation	観光創造フォーラム2021講演録 / 山村高淑 編 Proceedings of Tourism Creation Forum 2021 / Edited by Takayoshi Yamamura
Citation	CATS 叢書, 16, 169-195
Issue Date	2022-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84833
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS16_5.pdf



新たな祭りの創出と地域への定着

——実行委員会から見た祭りの 10 年 課題と展望——

山下 新一郎

湯涌ぼんぼり祭り実行委員会 委員長

山村 高淑

北海道大学観光学高等研究センター 教授

1. 開催趣旨

山村: 司会を務めます北海道大学観光学高等研究センターの山村高淑と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。今回は「新たな祭りの創出と地域への定着——実行委員会から見た祭りの 10 年 課題と展望——」と題しまして、講師には、金沢市湯涌温泉で、湯涌ぼんぼり祭り実行委員会の委員長を務めていらっしゃいます山下新一郎様にお越しいただきました。山下様、本日は何卒宜しくお願い申し上げます。なお、本日のフォーラムは、北海道大学観光学高等研究センターと一般社団法人地域発新力研究支援センター (PARUS) 様との共催でお送りいたします。PARUS 様と私共のセンターとは、2015 年に包括連携協定を提携させて頂きまして、その後、コンテンツツーリズム分野の共同研究・共同事業を推進しております。この場をお借りいたしまして、開催に当たり多大なるお力添えを頂きました PARUS 様に心から御礼申し上げます。

さて、本日のタイトルにある〈湯涌ぼんぼり祭り〉は、『花咲くいろは』というアニメーション作品がきっかけとなって、2011 年に金沢市湯涌温泉で創出されたお祭りです。2011 年以降、毎年開催されるようになり、地域の祭りとして定着、コンテンツツーリズムの成功事例として全国から注目を集めてきました。コンテンツツーリズム界では知らない人のいない事例と言っても過言ではありません。さらに今年 (2021) 年 8 月には、祭りの 10 周年を記念するとともに、コロナ禍での 2 年間の休止を乗り越え、来年からの再開を祈ることを目的に、地元実行委員会・製作委員会・ファン・研究者が協力する形で、書籍『湯涌ぼんぼり祭り 2011-2021～アニメ「花咲くいろは」と歩んだ 10 年～』が出版されました¹。

今回のフォーラムでは、第 1 回目から祭りの実行委員長を務めてこられた山下新一郎様

¹ 書籍『湯涌ぼんぼり祭り 2011-2021～アニメ「花咲くいろは」と歩んだ 10 年～』については、以下の公式サイトを参照されたい。<https://parubooks.jp/books/bonbori10th/>

をお招きし、祭りの10年の歴史を整理して頂くとともに、ご尽力なされた点、ご苦労された点、地域社会が抱える課題と今後の展望等についてお話しを伺います。その中で、大きく三つの点について、学ぶことができると考えております。第一に、〈温泉街・地域社会と権利者との関係性の構築と維持〉について。第二に、〈ファン・旅行者の皆さんとの良好な関係性の構築と維持〉について。そして第三に、〈地域が抱える課題と、アニメツーリズム／コンテンツツーリズムが持つ可能性や課題〉について、です。

さて、山下様のお話をお伺いする間に、少々お時間を頂戴いたしまして、アニメーション作品『花咲くいろは』と〈湯涌ぼんぼり祭り〉について、簡単にご紹介を致します。『花咲くいろは』は、2011年4月から9月にかけてTV放送されたオリジナルアニメーション作品(マンガや小説などの原作を持たず、当初よりアニメーション作品として企画・制作された作品の意)です。ストーリーを簡単に申し上げますと、東京で暮らしていたが、わけあって祖母が経営する温泉旅館(湯乃鷲温泉・喜翠荘)で仲居をしながら暮らすことになった主人公の高校生・松前緒花を中心に、登場人物たちの奮闘と成長を描く物語、となるでしょうか。そして、この作品の舞台である架空の温泉街(湯乃鷲温泉)のモデル(いわゆる舞台モデル)となったのが〈湯涌温泉〉なのです。このような縁があり、湯涌温泉では、アニメ作中で描かれた架空の祭り「ぼんぼり祭り」を2011年10月に湯涌温泉で実際に開催することとなります。その後、同祭りは第9回まで継続致しますが、2020年、2021年と、コロナ禍に伴い開催できない状況が続きました。

また、冒頭で湯涌ぼんぼり祭りをコンテンツツーリズムの成功事例と申し上げました。その理由を私なりに整理したものが図1になります。コンテンツツーリズムの継続的な展開において最も重要なキーポイントのひとつが、地域側と権利者(著作権者)とファンとの良好な関係性の構築と維持です。そして、その際重要になるのが、権利者と地域との複雑な手続きをどのような人材あるいは組織が〈調整役〉として担うのか、という点になります。湯涌ぼんぼり祭りの場合は、この〈調整役〉を〈ぼんぼり祭り実行委員会〉が担われています。そしてこの委員会は設立時から、地域の皆さんと権利者(アニメ制作委員会)の双方からメンバーが参画しています。この立ち上げ時からの双方の参画という点が、非常にきめの細かな、丁寧な祭りの実行を実現している大きな背景になっていると私は感じています。さらには、作品ファンの有志によって〈湯涌サポーターズ〉という地域活動をサポートするチームも結成されていて、ファンの皆さんの声も地域に反映される形になっています。他の類似事例を見ても、このように関係者間が良好につながり続ける仕組みを構築した例はなかなか見当たりません。まさにこのあたりに、祭りの開始から10周年を迎え、単なるイベントではなく、地域の祭りとして定着していった秘訣があるように感じております。

前置きが長くなってしまいましたが、是非、このあたりのことを中心に、山下様から多くのことを学ばせて頂ければと存じます。それでは山下様、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

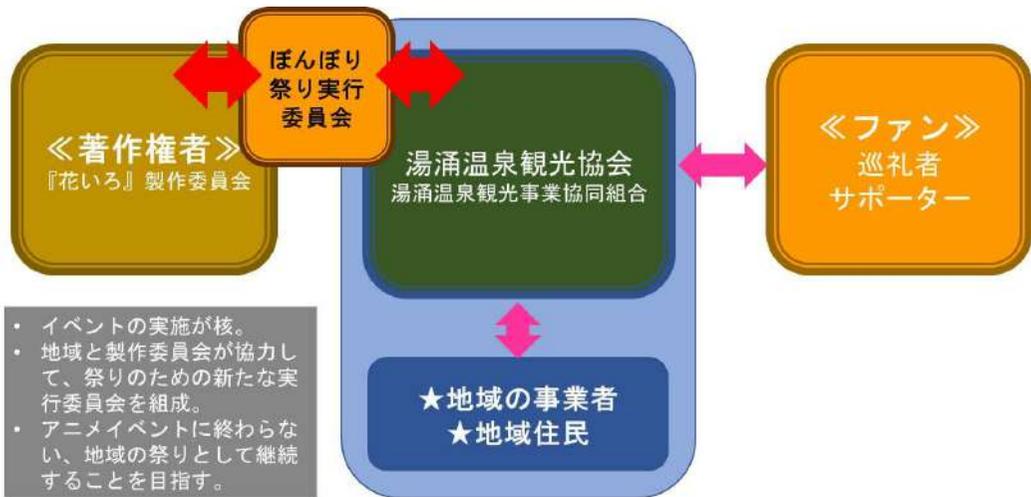


図1 〈湯涌モデル〉——〈湯涌ぼんぼり祭り〉実施体制モデル

2. 湯涌温泉とアニメ『花咲くいろは』について

山下:皆様本日はどうぞ宜しくお願い申し上げます。金沢市にごございます湯涌温泉から参りました、湯涌ぼんぼり祭り実行委員会の委員長、山下新一郎でございます。早速、お話しを始めさせていただきます。

さて、まずは湯涌温泉についてです。ご存知ない方もいらっしゃるかと思いますのでご説明させていただきます。湯涌温泉は、石川県金沢市にある小さな温泉街ですが、歴史は古く、718年にお湯に浸かって傷を癒している一羽の鷺を農夫が発見したといわれるとなっております。それ以降、加賀前田藩の隠し湯でもございましたし、大正時代時には大正浪漫の旗手・竹久夢二が最愛の人・彦乃と人生最良の二週間を過ごしたということで、今は湯涌温泉に夢二の記念館もございます。現在は9軒の旅館が営業しており、年間6万人程度のご宿泊を頂いております。各旅館は小さいながらも、お料理ですとかおもてなしですとか、そういう〈人〉の部分で非常に高い評価を得ておりまして、ミシュランガイド等でも紹介されております。

先程山村先生からもお話しがありましたアニメーション作品『花咲くいろは』ですが、こちらを制作されたのは、湯涌温泉のお隣、富山県南砺市にありますP.A.WORKSという制作会社さんです。ストーリー等は先ほどの山村先生の説明にあった通りなので割愛させていただきます。こちらの作品は、2011年のテレビ放送後、2013年には劇場版が公開

され、2019年には電子書籍で続編が発表されるといったように、高い人気を誇っておりま
す。国内のみならず海外でも非常に高い人気ということで、舞台モデルとなりました私ども
からすると非常に嬉しい限りです。私どもが湯涌温泉にいて肌で感じますのは、「多くの海
外のお客様もこの作品をご覧になっているんだなあ」という点です。実際に中国の動画視聴
サイト bilibili では同作品に 9.6 点という非常に高い点数が付いておりまして、あの有名な
『鬼滅の刃』等よりも評価が高いという状況でした。

こちらは湯涌温泉の外国人宿泊者数の推移(表 1)です。新型コロナウイルス蔓延以降は、
さすがに外国からのお客様はいらっしゃらないわけですが、作品が始まる前の 2008
年——この 2008 年というのが後ほどキーワードになってくるかと思うのですが——には
年間 60 人しか外国人観光客がいらっしゃいませんでした。そもそも湯涌温泉は、地元客の
割合が非常に高い温泉街だったんです。2008 年の数字を見ますと、67%が地元のお客様で、
県外の方は非常に少なかったことがわかります。ところがそれ以降、2011 年に『花咲くい
ろは』がオンエアされ、2015 年には北陸新幹線が開業しまして、そういう流れの中で徐々
に数字も変化していきました。海外からのお客様も 90 人だったのが、2018 年には 840 人
まで伸びました。このように海外からのお客様の伸び率が高かった中でコロナ禍となっ
てしまいました。温泉街としましては今、非常にもどかしい時期を過ごしております。

表 1 湯涌温泉における外国人宿泊者数の推移 (2008-2018 年)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
全体客数 (人)	59,988	55,387	50,342	53,512	51,566	49,018	51,445	65,397	59,942	60,125	64,204
石川県内客 (人)	40,262	36,092	30,372	28,969	28,123	23,920	23,306	21,889	18,365	15,945	14,013
県内客割合 (%)	67	65	60	54	54	49	45	33	31	27	22
外国人宿泊客数 (人)	90	120	118	127	190	350	403	749	585	697	840
外国人客割合 (%)	0.15	0.20	0.23	0.24	0.37	0.70	0.78	1.10	0.97	1.15	1.30

※2008年7月 浅野川水害

※2011年4月 花咲くいろは OA

※2013年3月 花咲くいろは劇場版 全国公開

※2015年3月 北陸新幹線開業

※2017年8月 県道10号線 崩落

3. 〈湯涌ぼんぼり祭り〉開催までの経緯

アニメの舞台モデルになった経緯とそのインパクト

アニメーションの舞台モデルになった経緯についてお話致します。これは 2009 年の後半
のことになります。湯涌温泉観光協会のほうに『花咲くいろは』の製作委員会、P.A.WORKS
様からお話がありまして、お話を私がお伺い致しました。「湯涌温泉をモデルにアニメー
ションを作りたい」というお話でした。その時は、何と言いましようか、信用して良い話なの
か——本当に田舎者なので非常に猜疑心も強くて——話を飲み込めずにおりました。そん

なわけで当初は、製作委員会の皆様には非常にご迷惑をおかけしたと思います。先ほども申し上げましたとおり、湯涌温泉は、地元客が多くて観光客が少ない中で、昔ながらの商売をずっと続けて来た、どちらかというと保守的な町です。そうした町に、アニメーションという、いわばとんでもない話が突然降って湧いたわけです。なかなか地元側では話がまとまらなかったことを覚えています。

お話を頂いた2009年というのは、その前年2008年7月に、湯涌温泉を大きな水害（浅野川水害）が襲いまして、温泉街としても非常に大きなダメージを受けていた時期でした。さらに、その後の2011年の東日本大震災で、日本中が自粛ムードに包まれてまして、温泉街として苦しい状況下に置かれることになりました。当時を、そういう時系列で押さえておいて頂ければと思います。

さて、こちらが実際の湯涌温泉街の風景と、作中に出てきました湯乃鷺（ゆのさぎ）温泉街です。スタッフの皆さんが取材を重ねられ、非常に細部まで丁寧に描かれておりまして、私どももオンエアされたものを見て、ちょっと驚いた覚えがございます。こちらも温泉街の入り口にある看板ですけれども、当初「アニメーションではなく実写なんじゃない？」という話が出たくらい精密に描かれております。

実際にアニメーションの舞台モデルになるまでに、スムーズに話が進んだわけではございません。そもそも「アニメーションの舞台モデルに」という話自体、機密性が高いお話でしたので、観光協会の中でも私を含めた一部の役員のみでまずは情報を共有して協議を重ねておりました。湯涌温泉街のお客様に占める地元の方の割合が6〜7割という中で、アニメーション作品の視聴者層と温泉街の客層とのギャップが大きいのではないかと、当初はやはり否定的な意見も多かったです。そうした意見の背景には、やはりアニメーションのファン、俗にいうオタクという方々に対する偏見等が多くあったと感じています。

実際に舞台モデルになり、オンエアがされますと、ある日突然、具体的にはオンエア後のゴールデンウィークになるのですが、大勢のファンの方が湯涌温泉に押し寄せまして、突然歩行者天国のような状態で、温泉街の中を車が行き来できないような状態になったんですね。私どもも、まさかこんな騒ぎになるとは、ということで非常に驚きましたし、先ほど申し上げましたように、舞台モデルになったことは地元でも一部の人間しか知らない話ですので、当時、商店を運営されていた方たちも、「突然若いお兄ちゃんたちがお店に押し寄せてきて……一体何があったの？」みたいな感じで、ちょっとしたパニック状態に温泉街が陥りました。アニメーションの持つ力というのを非常に強く感じたエピソードです。

また、そうしていらっしやった大勢のファンの皆様のマナーが非常に良かったという点も、当初の私たちの想定とは違った点でした。特にこの点は、その後の取り組みの大きな追い風となったと思います。

湯涌温泉は、従来は常連のお客様に支えられていたわけですが、常連のお客様というのは温泉街の中を歩かれません。一方でファンの方は温泉街の中を非常によく散策される。ファンの方が温泉街を散策されるようになったことで、私たちは、町が生き返ったよう

な、そんな印象を受けました。

開催準備

さて、先ほども述べましたように、アニメーション作品の舞台モデルにという話を頂いてから、私どもがなかなか「うん」と言わないものですから、製作委員会の方が何度も足しげく湯涌温泉に通っていただくかたちになっておりました。〈ぼんぼり祭り〉というのは、そうした話し合いの中で出てきたキーワードでした。小さな女の子の神様が神無月に出雲に帰る際に道に迷わないよう人々が〈ぼんぼり〉の明かりで道を照らす。神様はそのお礼に、人々が〈のぞみ〉を書いた札を出雲に届けて願いを叶える、というのが作品の中で描かれる〈ぼんぼり祭り〉のストーリーなんです。なるほど素敵なストーリーだと思ひまして。これを湯涌温泉でやってみたいということ、オンエア直後なんですけれども、私どものほうから製作委員会に打診をいたしました。

先程も申し上げましたように、湯涌温泉は2008年に浅野川水害という非常に大きな水害に見舞われておりましたので、それから3周年、お陰様で立ち直りました、というところを当時復興にご協力いただいた皆様に見ていただく意味合いでも、〈ぼんぼり祭り〉を開催したいという思いがありました。こちらは浅野川水害の時の写真です（図2、図3）。

奥が上流になるんですけども、上流のほうから車が流れてきています。私どもも初めて見る光景で現実とは思えませんでした。実際、旅館の中にお客様が取り残されてしまい、半日以上ずっと旅館の中に閉じ込められるという状況が続いておりました。今この写真を見ましても、当時を思い出して寒気が致します。

いずれに致しましても、当時、「ぼんぼり祭りをやりたい」と言っただけは良いが、実際には準備期間も半年しかないわけで、「さあどうするんだ」ということで大慌てになったことを覚えております。また、当時は、アニメファンに対する偏見も、地域の側に根強く残っていた時期で、実施に向けて不安があったことは確かです。

図4は、湯涌ぼんぼり祭り開催までの経緯を時系列でまとめたものです。まず、湯涌温泉から製作委員会に「湯涌温泉ぼんぼり祭りをやってみたい」と言いましたのが2011年4月でございます。それと時を同じくしまして、湯涌稲荷神社の宮司様に「こういったお祭りをやってみたいんですけど」ということでご相談をいたしました。宮司様からも「非常に面白い試みなので湯涌温泉のためでしたら、ぜひ協力させていただきます」ということでご快諾を頂きました。金沢市行政にも打診をしたのですが、当初は取り付く島もなくすぐ帰って参りました。その後、何とか地元で力を合わせて祭りを実現するんだということで、湯涌ぼんぼり祭り実行委員会を立ち上げたのが2011年5月です。それ以降は、週2~3回のペースでP.A.WORKS様と打ち合わせを重ねました。私どもは変則的な商売というか当時私自身も旅館をやっておりましたので——しかも厨房で料理をやっていました——なかなか先方様と時間も合わず、それこそ夜遅い時間に私共が先方にお邪魔することもあれば、先方からこちらにご足労いただくこともあり、P.A.WORKS様には本当にご迷惑をおかけいた



図2 浅野川水害 (1)



図3 浅野川水害 (2)

しました。

実際にぼんぼり祭りをやると言ったのは良いのですが、そもそもどんな規模でやるかを考えなければなりません。そこで、まず点灯式という形で、本祭の前にあらかじめ皆様の反応を伺ってみようということになりました。こうして 2011 年 7 月に点灯式を開催致しました。十分な告知はしなかったのですが、それでも当日 500 人以上の方が湯涌にいらっしやって点灯式をご覧になりました。それを受けたタイミングで、この調子で本祭は目標 3 千人が妥当であろうと決定いたしました。

開催決定から開催まで実際に半年間という短い期間でしたので、本祭の全体構成が最終的にフィックスできたのは 10 月 7 日、実際の本祭開催日は 10 月 9 日でしたので、本当にギリギリ、綱渡りの状況でした。なお、そのタイミングでも「温泉街の雰囲気こそぐわない」という意見は多数寄せられてはおりました。

3～湯涌ぼんぼり祭り～

開催準備

- ▶ 湯涌温泉から製作委員会に「湯涌ぼんぼり祭り」の打診 2011年4月
- ▶ 作中の「ぼんぼり祭り」は神無月 2011年10月
- ▶ 行政に打診 → 取り付く島もなし 2011年4月
- ▶ 湯涌ぼんぼり祭り実行委員会発足 2011年5月
- ▶ 以降、週2～3回ペースでP.A.WORKS様と打ち合わせ
- ▶ ファンの方の反応が見たい事も有り、点灯式を開催 2011年7月
- ▶ 点灯式に500人以上の来場があった為、本祭の目標を3,000人に
- ▶ 全体構成が最終的に決定したのは10月7日（本祭は10月9日）
- ▶ 湯涌温泉街の雰囲気こそぐわないと反対意見多数

図4 湯涌ぼんぼり祭り開催までの経緯

アニメファンの特徴と地域側の意識の変化

私も事業者も含め地域住民の方々の意識の変化について触れたいとおもいます。アニメのオンエア前に、私たちがアニメファンに対して抱いていたイメージは——やはりニュース報道等で何か事件があって容疑者はアニメファンでしたといった感じの、ちょっと偏った報道を目にすることが多かったものですから——「気持ち悪い」「怖い」「引きこもっていそう」「ニートみたい」というものでした。ただ、実際にオンエアされ、ファンの方が湯涌温泉に足を運んで下さり、地域住民の方々と触れ合う機会が増えるとともに、私たち地域側の認識も変化していきました。いらっしやるファンの皆さんは非常に礼儀正しくて、マナ

ーが良くて、お話し好きな方が多い。総じて皆さんいい人だよ、ということで、アニメファンの方々に対する認識が大きく変わったのです。この認識の変化は、湯涌ぼんぼり祭りを開催するうえでは大きな推進力になりました。

実際に湯涌にいらっしゃるアニメファンの方々のエピソードをいくつかお話し致します。湯涌ぼんぼり祭りの開催前に、ファンの方同士が SNS 等で呼びかけを行い、自主的に湯涌稲荷神社や温泉街の清掃をされていたんですね。また、湯涌ぼんぼり祭り第 1 回開催当日、5 千人以上の方が湯涌にいらっしゃったのですが、タバコの吸い殻も空き缶も一つも落ちていないんです。皆さん自主的にゴミを集められて、それこそ落ちていたゴミも拾って集積所に持って行って頂いたりしていたのです。こうしたことには、私どもも本当にびっくりいたしました。それに、ファンの方々は、本当に、心から楽しそうに温泉街を散策されているんですね。そうした姿を見た地域住民の方々から、非常に心が温まるといった感想も頂きました。ぼんぼり祭りの時は多くの行列ができるのですが、そんな時も誰一人文句も言わず、係員の指示に従ってくれます。こうしたファンの皆さんのマナーの良さは、私も強く印象に残っています。

ファンの皆さんの年齢層は、今までの湯涌温泉街ではありえないくらい若い方が多い。そうした若い皆さんが、旅館のサービスに対して非常に感動して下さった。そうした姿は、旅館を経営している側、旅館で働いている側にも非常に新鮮に映りました。中には高校生で、一生懸命アルバイトをしてお金を貯めて、湯涌に来て宿泊をしてくださる方もいらっしゃいました。そうした高校生の姿に感動し、サービス業としての初心を取り戻した、というように話も旅館の方々から多く聞かれました。

これがまたこの事例に特徴的な出来事なのですが、『花咲くいろは』をご覧になって、湯涌温泉の旅館で働きたいという方が現れました。実際、私がやっていた旅館でも、たぶん 10 人以上いらっしゃったと思います。長く続いた方もいらっしゃいますし、合わなかった方もいるので、そこは作中じゃないリアルな温泉旅館ということでいろいろあったのだろうと思いますが……。

4. 祭りの構成

〈湯涌ぼんぼり祭り〉の構成をまとめたものが図 5 です。構成と致しましては、まず、点灯式がまずございます。こちらは大体 7 月の下旬に行っておりまして、全国の皆様から協賛いただいた〈ぼんぼり〉を、この日から湯涌温泉街に灯します。言わば、湯涌ぼんぼり祭りのキックオフ的な祭事です。

その後、10 月（神無月）に湯涌稲荷神社の神様を出雲にお送りする一連の祭事を執り行います。まず〈神迎え行列〉からスタート致します。その後、〈神迎え式〉、〈神送り行列〉

(お迎えした神様をお送りする神送り行列)と続きます。そして、その神様を送り出す〈神送り式〉と〈お焚き上げ〉、という流れになっています。〈神迎え行列〉が大体20時スタートで、〈お焚き上げ〉が21時20分頃ですので、全体で一時間半くらいの時間で、湯涌温泉街に大変マッチしたお祭りになったのではないかと自負しております。

こちらは点灯式の様子です。こちらの背景に写っておりますのは、全国の皆様からご協賛いただいた〈ぼんぼり〉で、この日以降、湯涌温泉街を夏の間照らしてくれることになるわけです。こちらは本祭の模様です。温泉街自体が非常に狭いので、人口密度が高くなってしまっているのですが、何とか行列が通れる程度のスペースを皆様協力して空けて下さるので、今のところ、ここでトラブルが起こったことはございません。その後に〈神迎え式〉ということで、湯涌温泉街にある湯涌稲荷神社に神様をお迎えにあがりまして、宮司様に祝詞をあげていただきます。そして、お迎えした神様を今度はお焚き上げが行われます玉泉湖という、湯涌温泉の奥にごございます湖に行列をなしてお連れします。玉泉湖に到着致しますと、〈神送り式〉です。まず宮司様から祝詞をあげていただきまして、その後に神様——赤い着物を着ている女の子が神様なのですが——が灯す火で、皆様が〈のぞみ〉を書いた望札をお焚き上げするという、こういう流れになっております。

3～湯涌ぼんぼり祭り～

お祭りの構成

<点灯式>

- ・7月下旬に皆様にご協賛いただいた「ぼんぼり」を灯す、湯涌ぼんぼり祭りのキックオフ的な祭事。

<本祭>

- ・10月(神無月)に湯涌稲荷神社の神様を出雲にお送りする祭事

・以下の構成

- ▶ (1) 神迎え行列：お祭りのスタート。神様を稲荷神社までお迎えにあがる行列
- ▶ (2) 神迎え式：稲荷神社で神様をお迎えする儀。宮司様の祝詞を上げていただく
- ▶ (3) 神送り行列：稲荷神社でお迎えした神様をお焚き上げを行う玉泉湖までお送りする行列
- ▶ (4) 神送り式：玉泉湖畔浮島にて祝詞を上げ、神様を出雲までお送りする儀
- ▶ (5) お焚き上げ：稲荷神社に奉納又は行列の道中でお預かりした人々の「願い」がしたためられた「のぞみ札」をお焚き上げ、大願成就を祈念する

図5 〈湯涌ぼんぼり祭り〉の構成

5. これまでの取組を振り返って

開催費用の捻出

この湯涌ぼんぼり祭りですけれども、いまだに苦労していることは多々あります。最初の年などは、そもそも予定をしていなかった祭事ですので、私ども観光協会としましては全く予算を組んでおりませんでした。行政からの補助金等も得られませんでしたし、そもそもどんなお祭りなのか未定の部分もあり、全体の構成も決まらない中で、まずは事業費が算出できなかつたんですね。最終的には、旅館、商店さんを含め観光協会会員が自己負担をしても構わない、という気持ちで、取引先の皆様に協賛をご依頼したり、運営費を捻出するために記念グッズを制作して販売したりすることで、何とか運営費が捻出できました。湯涌温泉では、これまで『花咲くいろは』というアニメーションを使って商売をしないでおきましょう、ということの一つのスローガンとして掲げてきました。ですから記念グッズも、商売ではなく、あくまでお祭りを開催するための資金の捻出という位置づけです。こういった方法の開催費用の捻出というのはありなのではないかと感じております。

その後、第2回、第3回と祭りが続いていくわけですが、製作委員会様に、湯涌ぼんぼり祭りのポスターを毎年描いて頂くようお願いしております。毎回毎回、本当に素晴らしいポスターを描き下ろして制作して頂いております。今年の10月には第10回のポスターをお披露目させて頂きました。描いていただいたポスターを基に、記念グッズを制作しまして販売しております。併せまして現在は行政からも助成金が付くようになりました。当初文化庁にも付けて頂いておりましたが、現在は金沢市から補助金を頂いております。

第2回ぼんぼり祭りの時から、湯涌ぼんぼり祭りに賛同して下さる皆様に協賛を募りまして、協賛して頂いた方のお名前の入った〈ぼんぼり〉を、湯涌温泉街に灯させていたいております。こうした協賛ぼんぼりは現在350基ございます。

あとは、当然大勢の方が湯涌ぼんぼり祭りにいらっしゃるので、そういった方々の胃袋を支える飲食ブースがございます。こうした飲食ブースの出店者の方々に、お祭りのクライマックスである〈お焚き上げ〉を観覧できる入場パスの抽選券を配布し、売り上げ保障としたうえで、出店料を徴収して開催しております。

一方、点灯式以降、北陸鉄道という地元のバス会社が記念乗車券を販売しております。この記念乗車券のロイヤリティも運営費に充てるという形をとらせて頂いております。また、地元の企業が制作・製造します記念グッズについても、ロイヤリティおよび委託販売を行いますので、そういった収入も開催費用として使用させて頂いております。

こちらは過去の記念グッズの一例ですけれども、アニメのキャラクターとともに金沢の観光名所が描かれたポスターや、金沢カレーの『花咲くいろは』バージョン、こういった商品も作っております。こちらが第9回湯涌ぼんぼり祭りの時のポスターになるのですが、告知用として使用する以外に、販売グッズとしてもポスターは活用しております。また参照

される皆様にもできればお持ち頂きたいという思いで開発しましたのは、手持ち用の小さな〈ぼんぼり〉です。こういった記念グッズを製作して運営費に充てられるというのは、私どもにとっては非常に大きなアドバンテージだなと感じています。

山間の小さな温泉街故に

湯涌ぼんぼり祭りを行っております湯涌温泉ですけれども、先ほどから何度も申し上げましたように、温泉街自体が非常に狭いんですね。それこそ端から端まで 400 メートル程度しかございません。よくある隣の路地とか、向こうの障子とかという感じのものは一切なく、本当にメインストリート 1 本しかない温泉街です。ですから、大勢の方をお迎えするために、近隣にある行政の施設〈金沢湯涌みどりの里〉を借り上げて、祭り当日は記念グッズの販売所、お客様用のレストスペース、飲食ブース等を設ける形で活用させて頂いています。

狭い温泉街でございますので、当日は一般の方の車は入れない形で、第 1 回の時から入場規制を厳しくかけさせて頂いています。とはいえ、車でいらっしゃる遠方の方も多いものですから、そういった方向けに、近く——と言いましても 10 キロ程度離れているのですが——、金沢大学の駐車場をお借りしまして、そちらに止めて頂いて、金沢大学と湯涌温泉間を北陸鉄道のシャトルバスでつないで頂いています。当日は温泉街自体、車が行き来する状況ではないものですから、周辺の道路につきましても一方通行に交通規制をかけさせて頂いている状況です。なお、湯涌温泉観光協会の会員の皆様の事業所や自宅もこうした規制区域に入ってしまうので、そうした皆様には車両の通行許可証を発行することで、一方通行にもご理解を頂いています。

この湯涌ぼんぼり祭りのハイライトである〈お焚き上げ〉が行われる玉泉湖というのは、大体 800 人程度しか入れない非常に狭い空間です。冒頭で申し上げました通り、当初設定した来場者の目標が 3 千人だったのですが、空間の容量上、この人数全てに〈お焚き上げ〉を見て頂くことができない。しかしお祭りでハイライトを見ることができないというのはあんまりではないだろうかということで、第 1 回の時から Ustream で〈お焚き上げ〉の様子を配信させて頂いております。

併せまして、温泉街からなるべく分散するよう配慮しつつ、近隣の学校を会場としてお借りしまして、『花咲くいろは』の製作委員会の皆様主催のトークショーですとか、ライブ、そしてサイン会等も行っております。このように、大きな会場が無い狭い温泉街ということで、湯涌温泉が有するあらゆる資源を駆使して祭りを実施しているのが実情です。

こちらは、みどりの里の夕食ブースですけれども、このような形で、テントで、大勢の方々の胃袋を満たすように鋭意努力しております。

こちらは記念グッズの販売店です。こちらにも非常に人気がございます、朝一番から並ばれる方、ともすれば前日から並んでいる方もいらっしゃいます。長い時は物販で 3 時間待ちぐらいになることもあるので、そこは今後の課題かと思っております。

こちらは物販ブース並びに飲食ブースですけれども、かつてコンビニエンスストアさん

ともタイアップ致しました。お互いのPRになるよう、ご協力を頂きました。

こちらが地元の北陸鉄道の臨時のシャトルバスです。行先表記が〈湯涌温泉〉ではなく、アニメの中での舞台地名〈湯之鷺温泉〉になっています（図6）。ファンの皆さんのハートをくすぐる仕掛けをして頂いております。



図6 金沢大学～湯涌温泉間シャトルバス

こちらがUstreamを配信するパブリックビューイングですけれども、皆様が一か所で携帯電話でご視聴になられると回線が持たないという問題もございまして、こういうパブリックビューイング会場を温泉街に数か所設けるようにしております。

当日は日中このような形で地元のアマチュア演奏家の方のライブイベント等も行なっております。祭り当日は湯涌温泉での滞留時間が非常に長くなるものですから、来場される方々を飽きさせない工夫をしております。

こちらが本祭の関係者挨拶のシーンです。壇上から見るとこのような形で、本当に人で埋め尽くされております。これは多分第1回の時の写真です。確かあと1名来賓の方がいらっしゃったのですが、早く会場に着きすぎたということで、「ちょっと温泉街をグルッと見てくるね」と言ったきり行方不明になってしまいましたため、予定より1名減という状況の写真になっています。それだけ大勢の方がこの狭い温泉街に押し寄せ、身動きが取れなくなってしまうんですね。こんなに大勢の人で温泉街での身動きが取れなくなるとは、私どもからすると本当に驚きでした。

人手が足りない

この湯涌ぼんぼり祭りの大きな問題は——これは第 1 回の時から変わらない問題なのですが——、やはり人手不足です。そもそも家族経営の小さな旅館、商店ばかりなものですから、皆さんはご自身の商売で手一杯なわけです。ましてや湯涌ぼんぼり祭りのタイミングで、当然旅館なんかもあつという間に満室になりますし、商店の方々も朝から晩まで働いても追いつかないような状況なわけです。ですので、当日イベントを行うにしても、イベント会場ですとか物販会場、そういった所へのスタッフの割り振りというのが非常に難しい。旅館は経営者自身が調理をしている——私もそうだったのですが——そういったメンバーも多いため、なかなか観光協会の方ですら、神事の行列への参加が難しい。神様を含め、行列には地元の子供たちにも参加してもらっているのですが——これが田舎の辛いところでございまして——児童の数が極端に少ない年もあったりして、〈小さな女の子の神様〉と言いながら 160 センチぐらいある……みたいなこともあったりします。この辺りの問題は、地域の方々と一緒に取り組まなければならないテーマだと思っています。

子供たちの話で言えば、祭りの開催時期が 10 月の連休になることが多いものですから、そういうタイミングですと児童の皆さんは、地域のクラブ活動等でなかなか参加が難しいというケースも出てきます。やはりこども頭の痛い問題です。人手は必要なものですから、近隣の大学等にもお話に行ってお協力を仰ぐわけですが、大学生の皆様もスケジュール調整がなかなか難しい。当然ぼんぼり祭りに参加すると事前の打ち合わせ、リハーサル等が必要になるのですが、「何度も何度も足しげく湯涌に通うことができないんです……」という方も多く、難しい問題だなと感じています。地域の青年団等もあるのですが、こども先ほどの児童の減少と同様、やはり年々人数が減っておりまして、ここに頼ることも難しいのが現状です。

そんな中で、湯涌温泉には、ありがたいことに〈湯涌サポーターズ〉という組織がございます。湯涌ぼんぼり祭りのみならず、湯涌温泉で行われる各種のイベントをサポートして下さるボランティアグループです。元々は『花咲くいろは』で湯涌温泉を知って、湯涌温泉にいらっしゃった方々です。最初は作品ファンとして訪れて頂いた皆さんが、来訪を繰り返して地元の方々との人間関係が構築されていく中で、温泉街の側から「ちょっと今度手伝ってよ」、といった軽い感じで始まったグループです。現在は、合計で 30 名程度、地元の方はそれほど多くなく、全国から集まって頂いています。湯涌ぼんぼり祭りめがけて前日の夜中から出て、朝から晩までイベントを手伝って頂いてと、本当に、祭りを楽しむ余地がないんじゃないかなと思いつつも、「みんなでこうやって集まって一つの事をやるのが楽しいんですよ」という言葉に甘えながら今まで力をお借りしています。こういった方々のご協力無しには、湯涌ぼんぼり祭りだけでなく、その他イベントも湯涌で開催できないのではないかと思います。本当に欠くことのできない大きな存在になっています。

これは湯涌温泉の本当に大きな特徴なのですが、皆さん商売をされながらお祭りに関わられているので、〈湯涌ぼんぼり祭り〉の全体像を把握している方が意外と少ないんです。

実行委員会のメンバーはある程度全体像を把握していますけれども、それでも打ち合わせに参加できないメンバーもいたりします。こうした点は湯涌温泉の大きな課題だと思う反面、それを今補う形でファンの方々が手伝って下さっているというのが、今の湯涌温泉を前向きにしている大きな要素だと思っています。

これまでの来場者数の推移

表2は、湯涌ぼんぼり祭りの今までの来場者数の遍歴です。点灯式・本祭と交互にございますけれども、当初（初回）の点灯式には500人、本祭に5,000人だった来場者数が、その後、一番多い年で、点灯式に延べ1,400人、本祭に延べ15,000人を超える方がいらっしゃっています。私どもも、まさかここまで大勢の方がいらっしゃると思わなかったですし、第1回から人数が増え続けたことも全く想像していなかった点です。それこそ『花咲くいろは』の製作委員会の皆様も、徐々に徐々に人数が減ってソフトランディングする形になるのではないかと予想されていた中では、非常に驚きの結果となりました。第7回が来場者数のピークではあるのですが、それ以降の第8回、第9回は、台風の影響で順延並びに開催規模を縮小して実施、その後の第10回は新型コロナウイルスの影響で未だ実施できていないという状況です。

表2 〈湯涌ぼんぼり祭り〉来場者推移

湯涌ぼんぼり祭り来場者数推移	人数	備考
第1回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	500	アニメ花咲くいろはOA中
第1回湯涌ぼんぼり祭り本祭	5,000	アニメ花咲くいろは最終話直後
第2回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,000	個人協賛開始
第2回湯涌ぼんぼり祭り本祭	7,000	劇場版花咲くいろは前売り券セット発売
第3回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,000	劇場版花咲くいろは公開後
第3回湯涌ぼんぼり祭り本祭	10,000	劇場版DRセット先行発売
第4回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,200	リアル宝探し開催
第4回湯涌ぼんぼり祭り本祭	12,000	サークルサックススタイアアップ
第5回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,400	北陸新幹線開業
第5回湯涌ぼんぼり祭り本祭	14,000	北陸新幹線「かがやき」で行く準天頂衛星「みちびき」コラボツアー
第6回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,400	
第6回湯涌ぼんぼり祭り本祭	15,000	サークルサックススタイアアップ3年目
第7回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,400	世界ジェラート大使 柴野大造ジェラートイリュージョン
第7回湯涌ぼんぼり祭り本祭	15,000	県道10号線崩落
第8回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,200	湯涌温泉開湯1300年記念事業
第8回湯涌ぼんぼり祭り本祭	6,000	台風25号の影響で順延、縮小
第9回湯涌ぼんぼり祭り点灯式	1,200	金沢湯涌ホテルの里に認定
第9回湯涌ぼんぼり祭り本祭	8,000	台風19号の影響で順延、縮小

新たな取り組み

湯涌温泉の現在の取り組みですけれども、冒頭で山村先生からお話があったように、記念誌の発刊ということで、第1回から今までのぼんぼり祭りの歩みを書籍化していただいております。こちらは非常に内容が——たぶんそうとは知らずに買った方もいらっしゃるみたいですが——学術的で面白かったという話も頂いております。ぜひ皆様もお手に取って頂ければ幸いです。

目下、第10回湯涌ぼんぼり祭が開催できない状況下にあるのですが、そんな中でも、やはり何とか来年こそは開催できるようにということで、今年の10月には、〈第10回湯涌ぼんぼり祭り開催祈念〉ということで、全国の方から〈ぼんぼり〉を募集いたしました。湯涌温泉では、夏の〈ぼんぼり〉がなくてはならないものになりつつあります。逆に無いとクレームが来てしまうんですね。「何でないの？」と。そういった大勢の方の声に答えるためにも全国の方に呼びかけを致しまして、来年のぼんぼり祭りに向けてお力をお貸しください、というかたちで始まったのがこの取り組みです。

10月23日には湯涌温泉街からオンライン配信イベントを実施致しました。先ほどの書籍を基に山村先生と PARUS の佐古田様にもご出演頂いた湯涌ぼんぼり祭りのアーカイブトークや、『花咲くいろは』の主題歌等を歌っているアーティストによるライブ、声優さん・プロデューサーさんをお招きしたトークショーなど、非常に内容の詰まった配信イベントでした。こちらの配信イベントも、企画・進行・撮影・配信、全て自分たちで行っております。

これが当日の様子ですけれども、このような形でライブを行って頂きました。「来年こそ湯涌ぼんぼり祭りが開催できますように」という願いを込めた花火を上げております。

あわせて、現在、湯涌温泉では、アニメーションコンテンツを使ってマップを作っております。このマップによって広域の観光連携ができないかということで企画したものです。まず第一弾として、2019年に金沢市湯涌温泉と P.A.WORKS さんの本社がある富山県南砺市、これら二つのまちを巡るマップとして「金沢・南砺 アニメで巡る旅マップ」を企画いたしました。1万部マップを用意したのですが、7,000部以上が1年で掃けておりますので、かなり大きな反響があったと感じています。その次年2020年には、更にエリアを広げて福井県の坂井市を巻き込んで「アニメでつなぐ北陸湯めぐりマップ」としてリニューアルしております。これらはいずれも P.A.WORKS さんの作品の舞台モデルとなった地域を巡る形で、当然舞台モデルとなった場所等も紹介しておりますが、それ以外の魅力というものもそれぞれの地域にあるわけで、そういったものも知っていただくためのツールとして開発しました。

これらマップは、湯涌温泉という小さな温泉街と金沢市とが協力して制作したのですが、これまで他の行政区域を紹介した事例というのはほとんど無いので、私どもが最初に、例えば福井県にご説明に上がった際の先方の反応が印象的でした。たぶん最初に P.A.WORKS さんに対して私たちがしたような表情だったんじゃないかなと思うのですが、「そんなことタ

ダでしてくれるの？」という、ちょっと胡散臭さも交えたような目で我々をご覧になられたのが印象的でした。

良かったなと思う点

今まで9回〈湯涌ぼんぼり祭り〉を開催してきて良かったなと思う点ですが、私たちが当初から言っております〈地域に根付いたお祭り〉という目標に順調に近づいてきている点です。地域の方の協力体制ですとか、それこそ広く金沢市内での認知度というところも含めて、本当に地域に根付いてきたなという実感があります。ただ先程も申し上げましたように、関係者一同、第3回目以降は、徐々に来場者数も減って湯涌温泉という町のスケールに見合った数になるんじゃないかなと思っていたのですが、それが良い意味で裏切られて、年々来場者数が増え続けている状況です。

開催資金を捻出するための施策、これは記念グッズであったり、〈ぼんぼり〉を通した個人協賛であったりするのですが、これらは企画として非常に良かったと思っています。また、ぼんぼり祭り際には、地元の小中学生に〈ぼんぼり〉に絵を描いてもらって、その〈ぼんぼり〉を掲出しているのですが、これも地域に根付かせる意味では非常に有益だったと思っています。

先ほど写真にありましたように、ぼんぼり祭りでは地元のアマチュアの演奏家の方々にライブをして頂くのですが、何でも好き勝手やられても困るということもありまして、制約を設けています。ライブをやってもいいけれど、『花咲くいろは』の楽曲を最低1曲やってください、という縛りを設けています。ご覧になれる方も違和感なく楽しめますし、それこそ『花咲くいろは』以外の楽曲も演奏することになりますので、そういった意味では逆に『花咲くいろは』をご覧になったことがない方々でも楽しめるわけです。こうした意味で、非常にいい企画だなと自負しております。

飲食ブースなども、可能な限り地域性を大切にしております。先ほどの金沢カレーもそうですが、それ以外にも石川県でオムライスを売りにしている地域もありますし、そのオムライスも作品では大きな役割を果たしたということで、そういった物を積極的にお客様に提供できるような体制を取っております。

問題点

問題点ですけれども、一つは情報発信の難しさです。台風の際に特に感じたことなのですが、例えば、「中止ですよ」もしくは「順延ですよ」ということの情報伝達、これが非常に難しいと感じました。それこそ『花咲くいろは』のファンからスタートして、湯涌ぼんぼり祭りに毎年毎年通ってくださるような方々というのは、こちらの発信する情報を逐一チェックして下さっているので大きな問題はありません。しかし、例えば、金沢市内に住んでらっしゃる方で、「湯涌ぼんぼり祭って祭りがあるみたいだから行ってみようか」というような位置づけの方々には、なかなかそういう情報が伝わらないんですね。かといって、そう

いった方々に伝えるために広告を打ったりできるかという点、それはやはり資金面で難しい。ここの難しさは痛感しています。

次にアクセスの悪さですね。今ほど申し上げましたように、湯涌温泉、非常に小さな温泉街ですし、なかなか空いた土地——休耕田はたくさんあるのですが——、使える土地という意味合いでの空いた土地がなくて、例えば関係者駐車場等、どうにかこうにか、下手すると林道とか農道まで使ってしまうようなレベルで対応していますので、こういったところも問題です。

そして、やはり増大する経費ですね。ここがやはり頭の痛いところです。来場者が増えれば増えるほど、それに対する安全対策にお金を割かなきゃいけなくなってきます。そこをどう捻出していくかという点は頭の痛い問題です。

それと、地域のスケールを上回る来場者の受け入れ。これは先天的というか、第1回からですけれども、ずっとマンパワー不足です。最後に、第8回第9回にありましたような天候に左右される開催。そして、新型コロナウイルス感染症という問題が、やはり大きな問題として立ちふさがっています。

6. これからの湯涌ぼんぼり祭り

最後に、これからの湯涌ぼんぼり祭り、これからの湯涌温泉について、どうあるべきなのか、私なりの考えをまとめたいと思います。

情報発信

情報発信に関しましては、今のところやはり速報性、拡散力の強さで Twitter を主に使っております。ただ、Twitter をフォローしていない方々へのアプローチ、ここをどうするかという点が大きな課題で、やはりこの点では、地元新聞メディア等のお付き合いが重要だと感じています。地元新聞メディア等に、報告ではなくてパブリシティな部分で取り上げて頂くことも必要だとは思いますが、なるべく広く多くの方に知っていただくような方法を見つけていかなければならないと感じています。ただその反面、万人を受け入れるスタイルが良いのかどうか。これから先、「ちょっと行ってみよう」という感覚の方と、この日を楽しみに半年前から準備をしてきた方々とを、同列に見るべきではないのではないかとこの葛藤も抱えています。そんな中で、各種イベントや様々な事業を通して、湯涌の SNS にお客様を誘導するような、そういう展開をしていく必要があるのではないかと感じています。

アクセス

湯涌温泉のアクセスの問題ですけれども、車両に関しては今後も継続して制限せざるを得ないと考えています。やはり近隣住民の皆様にも路上駐車等でご迷惑をおかけするわけにも参りません。ただ、先ほど申し上げました近隣の金沢大学の駐車場、こことシャトルバスで結んでピストン輸送をして頂くというのが現段階ではベストの方法だとは思っているのですが、その際配置する警備員や整備員、こういった方々の人件費が非常に大きなコストになっているのも、やはり問題点かと思えます。第8回、第9回の時は台風で順延になったわけですけれども、順延日での駐車場やシャトルバスの確保というのがなかなか難しいんですね。それこそ当日、北陸鉄道様におかれましては、空いているバスを全て湯涌温泉に回すくらいの体制で配車して頂いているので、なかなか突発的に「今日台風なので来週にしましょうか」というわけにはいかないのです。やはり開催日程に合わせ、予備日も設定する必要があるんじゃないかと感じています。このシャトルバスですけれども、路線的に、シャトルバスの中に通常の路線バスも混ざってしまうんですね。先ほどご覧いただきました行先表示を見ればお分かりいただけると思うのですが、いかんせん大変な混雑の中、路線バスとシャトルバスの区別がつかなくて、路線バスに乗りたくても間違っただけでシャトルバスに乗ってしまっただけで、途中で降りたかったのに金沢駅まで行かされちゃったというケースもあつたりします。そういったところは公共交通事業者の皆様と再度お話しをする必要があると感じています。

先程、車で来る方に関しては非常に厳しい制限を、という話をしましたが、そうすると敵もさるもので、今度は二輪車で来るようになってしまい、年々バイク・自転車を含め二輪車が非常に増えております。この駐車場をどうするかという問題があります。この話を突き詰めていくと、最終的には、最後のレベルとなる〈来場者の制限〉というところまで、もしかしたら踏み込まなければいけないのかとも感じています。

経費・財源

今後の経費の問題ですが、今申し上げた〈来場者の制限〉に関して言えば、来場者を制限することで警備費が削減できる。飲食ブースや記念グッズの販売ブースに関しても、私どもがこれを直接運営するのではなく業務委託というかたちで業務を切り離すことによって財源がスマート化できるのではないかと感じています。

恒久的な開催のための予算管理、運営開催費の新たな財源確保という点から協賛金も重要になるのですが、これにつきましては、例えば各旅館が取引先に「いいから協賛しろよ」という形ではなく、協賛する側、される側、それぞれにメリットがある形での財源確保を目指しています。

また、当然のことですが、新たな財源確保も視野に入れなければならないと思っています。これに関しては、実は金沢市内の宿泊施設の皆様と既に何度かお話しはさせていただいておりまして、湯涌ぼんぼり祭りの時に宿泊される方々に、インセンティブのある宿泊プランを

構築しようという方向性は決定しております。

受益者負担ということの観点から、湯涌ぼんぼり祭りに入場する際の料金を徴収する必要があるんじゃないかという意見も出てきております。また、配信コンテンツの有料化ということも実は考えておまして、先ほど10月に配信イベントを行ったと申し上げましたが、将来的には実際の（リアルの）お祭りとお祭りの配信、この二本立てでいく方向になるのではないかと私は感じています。ただ単に、それこそ防犯カメラのように、お祭りをダラダラ映していても有料化はできないでしょうから、配信ならではの特性、面白みがあるコンテンツでなければ有料化できないのではないかとということで、今いろいろと試行錯誤をしています。

祭りの規模の適度なスケールへのダウンサイジング

あとは、適度なスケールへのダウンサイジングですね。やはり15,000人というのは、どう考えても湯涌温泉にとっては多すぎる来場者数だと感じています。この地域のキャパシティを上回る来場者の受け入れという点に関しては、やはり安全確保が最重要課題です。これが湯涌温泉にとっては生命線だと思っています。この点で何か問題が発生すれば、やはり今後の開催が危うくなるのではないかと感じています。誰でも受け入れるというのは、この先難しくなるのではないかと感じています。来場された方々の満足度の向上のためにも、こうした点への配慮が必要になるでしょうし、感染症対策という点でも有効な手立てになるのではないかと感じています。

コロナウイルス感染症があったことで、今後來場者の事前登録が必要になるのではないかと感じています。また、先ほど「3時間待ちもある」と申し上げました記念グッズの販売ですが、こちらも現状でオンライン販売も開始致しましたので、こうした仕組みを活用して、なるべく待機列ができない、人が密にならない空間を作っていかなければならないと感じています。総じて、やはり〈入場者の絞り込み〉がキーワードになると思っています。

マンパワー

マンパワー不足については、先ほど申し上げましたように、飲食・物販というところを業務委託にすることによって負担を軽減したいと思っていますし、あとは地域の企業、そういった方々とのタイアップによって経費ならびにマンパワーを補填できればと思っています。やはり少子化が湯涌温泉としては大きな悩みですので、地元の小中学校のみならず、交流のある近隣の小中学校等も含めた教育機関等との連携について、これから先、可能性として考えていかなければならないと思います。また、湯涌ぼんぼり祭りを支える〈湯涌サポーターズ〉に関しましても、この先、メンバーの拡充が必要になってくると感じています。

開催日程

湯涌ぼんぼり祭りがこれまで天候に左右されてきた点についてですが、なるべく台風シ

ーズンを避けるという意味で10月の後半を目処に開催する必要があるのかなとも感じています。ただ10月の後半になりますと、夕方からかなり暗くなって寒さも厳しくなりますので、全体的に開催時間を前倒しする必要があると思います。なお、台風につきましては、多くの〈ぼんぼり〉が湯涌温泉に飾られていますので、これらに被害が出てはいけないということで、取り付け機材等の改良を既に実施しています。

予備日の設定についてですが、2年程前に検討はしていたのですが、まだ具体的に決定していません。ただ、予備日に関しましては公表しない方向です。と言いますのも、やはり予備日を公表してしまいますと、どちらの日程も宿泊施設を押さえる方が出てこられます。そうすると、やはりご商売されている方からすると大きな打撃になりますので、予備日に関しましては、たぶん事前には公表しない状態で進めることとなります。

総括

最後に総括を致します。今後の湯涌ぼんぼり祭りですが、神迎行列からお焚き上げまでという基本構成は、そのまま踏襲致します。こちらがぶれると、湯涌ぼんぼり祭りではなくなると感じています。ただ、そうした基本構造にプラスするものとして、新たな楽曲ですとか踊りといった部分を強化することで、来場された方にとって、今までは鑑賞しているだけだったお祭りから、参加できるお祭りへと、進化を目指したいと思っています。地域の文化・風習を積極的に取り入れていきたいなど。また地域の人材に積極的に参画して頂いて、単なる観光協会のお手伝いという形ではなく、企画段階から地域の方々と一緒に一貫して祭りを行っていく、そういう仕組みを作っていきたいと思っています。車両に関しましては、やはりどうしても祭り中は温泉街に入っていたくわけにはいきませんし、入場者数に関しても、安全上の理由から入場制限を行っていく必要があると思います。その上で、オンラインでの付加価値のある配信も行うことで、リアルと配信の2本立ての〈ぼんぼり祭り〉をこれから築き上げていかなければと感じています。

長時間のご清聴ありがとうございました。

7. 総合討議

山村：山下様、ありがとうございました。この10年間のご苦勞から今後の展望まで、非常に濃密な、しかも精緻に整理された内容で、大変勉強になりました。本当にありがとうございました。特に最後にお話し下さった、現地開催と配信を組み合わせるといふ、ハイブリッド型の祭りの展開を、先を見据えて目指されているお話は、現在各地で議論されているアフターコロナ、ウィズコロナにおける観光のあり方を考えるうえで大変参考になりました。今後、こうしたお取り組みが湯涌モデルとして全国にも知られていくのではないかと感心い

たしました。

それから、〈湯涌ぼんぼり祭り〉が10年間なぜ続いたのか、なぜ続けられたのか、という点について、今日のお話を伺って、私自身も腑に落ちた部分が多くありました。やはりスタートの段階から〈本物の祭りを目指された〉という点が重要だったのだなと感じた次第です。宮司さんをお願いをされて、祝詞も本格的なものを作っていただいたという……

山下：祝詞は確かに長いですね。

山村：ですよね。祝詞については、これはアニメイベントじゃない、本物の神事だな、という声をファンの皆さんからよく聞くんですよ。やはり本物のお祭りを作っていくというスタートがあって——よく山下さんをはじめ実行委員会の皆さんがおっしゃっていましたけれども——「アニメイベントではなくて、将来的に地域のお祭りとして定着するものをしっかり作る」という姿勢で、小学生や地元バンドの方も含め、地域の皆さんに参加して頂きながらお祭りを作っていかれたんですよ。まさにアニメ作品をきっかけとしたお祭りが〈地域のお祭り化〉していった10年のプロセスを学ばせて頂いたように思います。本当にありがとうございました。

視聴者の皆さんからご質問を頂いております。

「『咲くいろは』で商売はしないでおこうと決めていたというお話がありました。それは製作側と湯涌サイド、どちらから出た声だったのでしょうか。またそう決めていた理由はあるのでしょうか」というご質問です。いかがでしょうか。

山下：制作側からは一切こういうお話はなかったんです。湯涌サイドのほうで自主的に、こういう方向でいきましょうということで皆さんにご提案したんです。最初は温泉街からすごく怒られまして。やはり温泉街は経済区域なわけですよ。そんな中で、「せっかく自分たちが稼ぐためのツールが手に入ったのにそれを使わせないと何事だ」という声もありました。ですが、私が当初から重視したのは、湯涌温泉であり続けることが大切だという点です。『花咲くいろは』に流されて湯涌温泉が〈湯之鷺温泉〉になってはいけなないと。あくまで〈湯之鷺温泉〉のモデルとして取り上げたいと製作委員会の皆様に思っていたけど、その〈湯涌温泉〉であり続けることがやっぱり一番重要だと思っていました。ですので、『花咲くいろは』を使って商売をしない、『花咲くいろは』に流されるような温泉街では駄目だ、ということをお話しました。そういった意味では、当初いろいろと地域の皆様とぶつかったこともあるのですが、最終的には地域の皆様にもその点をご理解頂き、湯涌温泉にお越しになる大勢の皆様からの評価にもつながりました。結果として正しくて良かったなとホッとしています。

山村：ご商売をされている以上、本当に難しい決断だったと思います。ありがとうございました

した。次の方からご質問頂きました。

「コンテンツを通した広域観光連携のお話についてです。他県の自治体と連携する際に重要なポイントはありますか。交渉に押さえておくべきポイントがあれば教えていただきたいです」というご質問です。先程お話しいただいた湯涌温泉と富山県南砺市ですとか、越県した連携についてポイントがあれば教えていただきたいというご質問です。

山下：基本的に、広域観光連携に対して、行政の皆さんはアレルギーをお持ちでないと思います。ただ、行政主体ではなかなか進まないのも事実かと思えます。ですので、まずは民間同士の交流から始めて、その中に行政を巻き込んでいくというやり方がいいのかなと私は感じました。やはり、行政主体で動かそうと思うとスピード感もそうですし、それこそ予算の問題もあろうかと思えますので、そこは民が主体となって推し進めていくのがいいんじゃないかなと思います。

山村：地域側の民間が率先して主体的に動いて、結果を出していきながら行政に働きかけていく、ということですね。

山下：はい。

山村：ありがとうございます。次のご質問に行かせて頂きます。

「貴重なお話ありがとうございます。記念誌読ませていただきました。ソーシャルディスタンスや湯涌温泉自体のキャパシティー等の問題の解決策としてバーチャル化を進めていくとのお話がありました。配信ならではの取り組みとしては、具体的にどのようなことを考えていらっしゃるのでしょうか。学生や遠方に住んでいて現地に足を運べない潜在的な観光客にとっても非常にありがたい取り組みだと感じています。先日のYouTubeライブや記念花火、非常に楽しく拝見させていただきました。」というご質問です。

山下：ご視聴頂きありがとうございます。私どもからすると、やはり本当は湯涌ぼんぼり祭りを現地で楽しんで頂きたい。これが率直な思いです。ただ、そうは言いながらも様々な問題で現地に来ることができない方もいらっしゃいますし、本日お話ししたように、私どもの方から入場者制限をせざるを得ないことも考えられます。そんな中でのバーチャルの必要性というところを考えています。現地にお越しになられた方はお祭りの空気感を楽しめると思うのですが、やはりバーチャルだと、そうした空気感が伝わらない。現段階では具体的なことはお話できませんが、配信ならではの良さを強調しながら、一方的に見るだけではない楽しみ方をご提供できるような環境を作っていきたいと思っています。

山村：ありがとうございます。湯涌ぼんぼり祭りは早い段階でUstream中継を実施される

など、オンライン活用も先駆的に進められてきていらっしゃると思いますよね。そういったノウハウの蓄積から今後どのようなバーチャルなお祭りへの参加方式、コンテンツの誕生につながっていくのか、本当に楽しみです。次のご質問です。

「この10年で湯涌温泉の雰囲気は大きく変わったと思いますが、ぼんぼり祭り開催以前からの湯涌温泉ファンの皆さんからは何かご意見を頂いていますでしょうか」というご質問です。

山下：そうですね。『花咲くいろは』という作品をきっかけに、湯涌温泉は大きく変わりました。もちろん『花咲くいろは』という要素だけでなく、北陸新幹線というファクターもあったのですが、いずれにしても、湯涌温泉は全国でも非常に大きく変貌した温泉街のひとつになったと思います。そんな中で、以前から湯涌温泉を愛して下さっていたファンの方とお話しする機会もありまして。まちの変化について「どう思われましたか？」と実際に聞いてみたんです。私はてっきり「私の好きな湯涌温泉じゃなくなった」といったような答えが返ってくると思ってたのですが、実際はそうではありませんでした。その方から言わせると、『花咲くいろは』がオンエアされる以前から、徐々に徐々に湯涌温泉は来場者数が減っていたんですね。そういった状況をご覧になっていた方だったので、「あの時はすごい寂しかったけれども、『花咲くいろは』を愛して大勢の若い方が湯涌温泉に足を運んでくれるようになって、町が生き返ったようで私はすごく嬉しい」と言われました。これは意外でもありましたし非常に嬉しかったです。

山村：いいお話ですね。そのエピソードで、私も山下様からお伺いした話をひとつ思い出しました。このコロナ禍で、逆に若い世代の『花咲くいろは』ファンが増えていて、湯涌温泉さんにいらっしゃるようになったという。若い世代のファンが、実はこの巣ごもりの時期に生まれているというお話ですね。その辺りをお話しいただけないでしょうか。

山下：はい。『花咲くいろは』は、10年以上前の作品になるんですよね。当時リアルタイムでご覧になっていた方というのはそれなりの年齢になられているわけですが、最近では、当時リアルタイムでご覧になっていないであろう年齢層の若いファンの方が結構湯涌温泉にいらっしゃるんですよ。何故だろうとお話を伺うと、コロナ禍のステイホームということで、家にいらっしゃる時間が長くて、ネット配信等でP.A.WORKS様の最近の作品から、リンクをたどってだんだんと過去の作品の存在を知って、『花咲くいろは』にたどり着く、という感じの方が多いですね。10年前とアニメの視聴環境が変わっていて、そうした変化が湯涌温泉の来場者層にも影響を与えているのだとびっくりしました。海外からのファンのお客様も、ネットで見ているかたが多く、改めてネットってすごいなと思いました。

山村：そうですね。特にこの2、3年のネット配信プラットフォームの普及はすごいもの

があつて、いろいろな面に影響を与えていますよね。年齢層に関して言えば、これまでコンテンツツーリズムの限界性・弱点としてよく指摘されてきたのが、作品放送時のファンが、その後もずっとファンで居続けて、新しいファンはその後あまり生まれてこない、固定化されたマーケットがその後も年齢を持ち上がっていく、という点ですよね。それが、今お話しいただいたように、ネット配信という視聴環境の変化によって、新しい世代もあまり時代を意識せずに過去の作品に容易に接することができるようになった。巣ごもり需要やネット配信にはいろいろと課題もあるとは思いますが、この新たな作品ファン、そしてそれがきっかけとなった湯涌ファンを生んでいる点は、ポジティブな側面として把握しておく必要がありますね。

山下：はい。ただ、その中で私たちが幸運だったのは、やはり『花咲くいろは』という作品の持つ力——P.A.WORKS さんの 10 周年の記念作品だったというところもあったと思うのですが——がすごいという点です。そういうすごい作品じゃないと、やはりなかなか 10 年という時を経てもなお支持されるのは難しいと思います。作品自体が 10 年の時の流れに負けず、強い魅力を持った作品だったという点、これは私たちからすると非常にありがたいことです。新しい世代のファンが生まれてきている本質的な理由はそのあたりにあると思っています。

山村：そうですね。今見ても全く古く感じない内容ですもんね。本当に素晴らしい作品だと思います。次の質問です。

「お祭りの実行委員会の中に製作委員会の方も入っていらっしゃるということでしたが、どのような関係性を築かれていらっしゃるのでしょうか」というご質問です。

山下：実際には P.A.WORKS 様に入って頂いている形になります。私ども、第 1 回の際から P.A.WORKS 様とは何度も何度も話し合いを重ねて参りました。一緒に湯涌ぼんぼり祭りを作ってくださった関係性だと思います。今現在の湯涌ぼんぼり祭りについて言えば、実行委員会の中での湯涌温泉側の意向は 8 割というところだと思います。どちらかというと、現在の実行委員会における製作委員会の皆様というのは、「そこはそうした方がよい」といったアドバイスを頂くアドバイザーのような立ち位置です。ぼんぼり祭りを始めた当初から比べますと、実行委員会の中での製作委員会の皆様の声というのはより小さめに、湯涌温泉側の主体性がより強くなっている、という形です。

山村：関係者の中での実行委員会の位置づけとしては、最初に私がお見せした図 1——自信が無かったのですが——のような感じで宜しいですか？

山下：はい、まさにあれです。

山村：ありがとうございました。安心致しました。それでは最後のご質問になります。

「アニメがきっかけで、実際に旅館でお仕事をされるようになったファンの方もいらっしゃるのとことでしたが、ファンの方も実行委員会に参加なさったりするようなことはあるのでしょうか」というご質問です。

山下：重要なお質問ですね。実際にファンの方が実行委員会に入っているかということ、実はいらっしゃいません。と言いますのも、やはり作品ファンの方ですと、作品に対する思いがかなり強い。思いが強くて、やはり軸足が作品の方になりがちなんです。そういった意味では——これはバランス感覚だと思うのですが——お祭りをつくっていく上では、作品寄りの思考になりすぎてもいけないのではと私は思っています。実際に作品を大切にしつつも、作品をご覧になっていない方々も楽しめるような、そういうお祭りづくりを——やはり地域に根差す祭りと言っている以上——目指さなければいけないわけですね。そんな中では、今のところ、まだファンの方に、祭りの実施のコアの部分に関わって頂いている状況にはなっておりません。

山村：逆に、先ほど山下さんがおっしゃられたサポーターズというかたちで、側面支援、ボランティアな形でサポートするという位置づけになりますね。

山下：はい、今のところそういう状況です。

山村：ありがとうございました。最後に私から一つ質問なのですが、本日のお話で非常に重要な、かつ重いキーワードとして、〈ダウンサイジング〉という言葉がございました。これは、従来もオーバーツーリズムなどの問題で指摘されてきた点ではありますが、コロナ禍になって改めて大きく注目されるようになった言葉ですね。今やあらゆる観光地がダウンサイジング、あるいは適正な規模をどう捉えるか、悩まれていると思います。この辺りのことについて、今後の湯涌温泉でのご展望を具体的にお聞かせ頂けませんでしょうか。

山下：〈ダウンサイジング〉については、私自身、結構早いタイミングで考えてはありました。湯涌ぼんぼり祭りが〈地域のお祭り〉ではなく〈イベント〉として開催しているのであれば、早いタイミングから〈ダウンサイジング〉に踏み切っていたと思います。ただ、イベントではなくて地域のお祭りとしてこれから先もやっていきたい、ということでやっている私たちが、「見たい」と言って下さる方々を締め出すというのは、やはり難しいんですよね。ですので、本当に今でもずっと葛藤しております。来年の第10回湯涌ぼんぼり祭りは大勢の方に見て頂きたいという思いは当然あります。そして、それと同じくらいの熱量で、やはり11回から先の湯涌ぼんぼり祭りも開催し続けたいという思いもあります。例えば来

年限りで終わるお祭りや祭事でしたら入場制限をしないで済む方法を探すとは思いますが、やはり11回目から以降のことを考えましても、適正な規模で——開催規模、財源規模を含めて適正な規模で——開催する方向にシフトしなければ継続がきつくなるのではないかと考えています。

山村：そもそも湯涌温泉さん自体が、今日もお話がありましたけれども、空間的にも交通の便的にも制約があるわけですね。旅館が合計9件で、宿泊人数のキャパが500人という。そんな中で、これまで10年間、お祭りを継続されてきた湯涌温泉さんが、これからどういうふうに具体的な形で適正規模を考えられていくのかについては、同じような問題に悩まれている全国の皆さんにも、大変参考になるのではないかと、本日お話を伺って強く思いました。是非今後の展開についても、改めて勉強させて頂ければと思っております。ありがとうございます。

そろそろ終了のお時間となりました。山下様には長時間にわたり貴重なお話、そして質問へのご回答を頂き、本当にありがとうございました。ご視聴頂いた皆様には、最後までお付き合ひ頂き、また、たくさんのご質問も頂きましたことを心から御礼申し上げます。ありがとうございます。それでは最後に、山下様、一言頂戴できますでしょうか。

山下：本当に皆様、長時間にわたりご視聴いただきましてありがとうございました。湯涌温泉は、湯涌ぼんぼり祭りという大きな宝物を頂き、これをどう育てていくか、日夜考えております。今後、私どもも皆様からご意見等を頂戴して参考にさせて頂くこともあろうかと思えます。湯涌ぼんぼり祭り並びに湯涌温泉を引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

山村：山下様ありがとうございました。皆様、改めまして山下様にオンラインで拍手をいただければと思います。ありがとうございました。ご視聴いただきました皆様もありがとうございました。これにて本日の中継を終了したいと思います。長い間ご視聴ありがとうございました。失礼いたします。山下様、ありがとうございました。

山下：ありがとうございました。